

MATSUMOTO YAMAGA F.C.

vs Granscena Niigata F.C.

Sunday 29 June

08 HFL Division 1 week 9

「今日こそ勝つ」

「夢見る頃を過ぎてても」

金沢、JSCと連敗。そして必勝の覚悟で臨んだ信州ダービーは善戦するも引き分け。

こうやって語るとほんの少しの間のように思えるが、僕らにとってはもう喜び方を忘れてしまってるんじゃないかと思うほど、苦しい時間は長かった。しかし先週、僕らはそんな長いトンネルをようやく抜け出すことができた。福井で4-0と勝利し、約一月ぶりの勝ち点3を手に入れたのだ。

勝てなかった時間は本当に苦しかった。それは僕らサポーターにとってもそうだし、もちろん選手や監督も、山雅に関わる全ての人にとっても同じだったはずである。

連敗する時はいつも思うが、正直言って、出来ることならもう二度とこんな時間は味わいたくないと思う。だが、この苦しかった時間のおかげで学べたこともある。

それは、勝つことがどんなに素晴らしく、最高かということだ。福井での先制点は前半終了間際の石川のゴールだったが、もうこの瞬間の気持ち良さといったら無かった。何しろ1ヶ月ぶりのゴールである。もの凄い開放感だったし、本当にただただ最高だった。更に後半に見せた選手たちの戦いぶり、その結果積み重ねた3ゴールも、その一つ一つが僕らの溜まった鬱憤を吹き飛ばしてくれるようなものだったし、タイムアップのホイッスルが鳴る瞬間は、もう我を忘れて狂喜した。苦しい時間は、勝つって素晴らしいなと、そんな当たり前のことを再認識させてくれたのだ。

さて、そして迎えた今日は、我々のホームゲームである。つまり、ホームの多くのサポーター達と共に勝利を味わう絶好のチャンスなのだ。思い返せば、今年のホームゲームの戦績は1勝1敗2分とあまり奮っていない上、勝利した試合を振り返るには5月11日の富山戦まで遡らなければならない。

もう随分長い間、山雅のゴールを、勝利を見ていないサポーターも多いのではないだろうか。

しかし、だからこそ今日勝てば大きな喜びを得ることができるし、更にそれはこのクラブが上昇気流に乗っていく大きなきっかけにもなるだろう。序盤につまずいた福井、新潟を相手に連勝を決めれば、そこから一気に波に乗って行けるはず。そう、いつかではなくて、今日ここで勝つのだ。今こそ僕らの、山雅の力を見せ付けよう！ホームの力で勝利を掴み取ろう！今日こそ絶対に、俺達が勝つんだ。魂込めて、行こう！

【written by ようへい】

回を重ねるごとに、内容がネガティブに陥り、暗黒のデフレスパイラルへ突入、勢い余って筆が滑ってしまい(やや確信犯的な犯行あり)、編集からの苦情も絶えないと局地的に話題のこの連載(風)も、残り3回となりました。3回！早えよっ！その辺は、北信越リーグがホームで7試合しかないという短期決戦の勝負である以上、仕方がないですね。

そう、短期決戦である以上、ひとつの敗北、ひとつの引き分けが大ダメージにつながる。強いチームに勝てないのは勝負事であるから、しょーがない。返す返すも、あの開幕戦と第2戦の連続ドローがなあ……と、死んだ子の年を数えても仕方がないのだけど、本当に悔やんでも悔やみきれない引き分けだったわけで。

今日の相手は、その第2戦でドローとなった、グランセナ新潟です。

ええ、新潟に行きましたよ。

バッチリ引き分けの瞬間に立ち会いましたよ。あの時の不気味な静けさと怒り混じりのエールには身の毛もよだつ思いでしたよ。下手すりゃ暴動が起きるんじゃないかって。まあ、松本のサポーターには理性的な人が多いから(笑)、幾らなんでもそれはないだろうなあ、なんて思ったりもしたけど、何か間違いがあってもどうしようもないんじゃないかなあなんて、本気で思ったもの。

ぐちぐちと愚痴っぽい駄文を書かせてもらって何ですが、それでもクラブについていかに得ないのが惚れた弱みと申しますか、サポーター稼業の辛いところ。とりあえず、開幕戦でスコアレスドローを食らったサウルコス福井にはキッチリと借りを返した。しかも内容も今季最高の出来。1試合だけなので、今後についてはまだ分からないが、ようやく歯車が噛み合ってきたようには思えますよ。

……ええ、本当に長かったけどね。

それにつけても、怪我人が戻ってきたのが本当に大きい。

江口正輝選手、初出場おめでとうございます。ゴールを狙う気合、感じましたよ。初ゴールは是非、我々がホームスタジアムで上げては如何ですか？ 大声援、お約束しますよ。

矢畑智裕選手、長野戦、ほとんどぶっつけ本番だったようですね。福井では大事をとってお休みでしたけど、これから先、貴方のディフェンスリーダーとしての活躍、お願いします。

さあ、今度こそ反撃の開始だ。そろそろ、頭の上から俺たちを見下ろしている“奴等”に、吠え面かかせてやろうぜ。

【written by sapo】